

新たな行動計画策定に関する有識者ヒアリング（第2回）概要

1 テーマ 「通り魔殺傷事件の加害者特徴」

2 講演者 渡邊 和美氏（科学警察研究所捜査支援研究室長）

3 講演要旨

(1) 通り魔事件の定義と発生の推移

- ・ 通り魔殺人事件は、平成6年以前より7年以降の水準の方が若干多くなっているが、数としては非常に稀である。
- ・ 加害者は、無職の者が7割、多くを成人男性が占めるが、独身で独居又は親と同居している者が9割、中卒程度の学歴の者が5割、犯罪経歴のある者が6割、犯行時に精神疾患あり（人格障害を含む）とされる者が8割等の特徴がある。
- ・ 社会に不適応を示している者又は社会的に弱者の立場にある者が多くを占めており、その時々々の社会のひずみ、歪みの影響を強く受ける。

(2) 通り魔事件の特徴

- ・ 通り魔事件は、加害者特徴により
 - ① 粗暴型 凶悪粗暴な前科前歴を有する。
 - ② 非粗暴型・症状優位型 凶悪粗暴な前科前歴はなく、精神障害の症状増悪時に、精神症状の影響下で犯行を行う。
 - ③ 非粗暴型・人格問題優位型 凶悪粗暴な前科前歴はないが、人格の問題が大きく、周囲からはトラブルメーカーだと見られている。に類型化され、犯行形態によれば
 - ① 単発犯 被害者数、発生場所、発生時間ともに単一。
 - ② スプリー犯 被害者数・発生場所が複数、発生時間は一連。
 - ③ 連続犯 被害者数・発生場所が複数、異なる時間に犯行を繰り返す。に類型化される。この犯行形態の類型別により、加害者特徴が異なる。
- ・ 単発犯は、幻覚妄想などの陽性症状や感情の平板化などの陰性症状等の精神症状、脆弱な自我、反社会性等の人格の問題等により特徴付けられる。
- ・ スプリー犯は、ストレス耐性の低さ、「自分はもっと評価されていいはず」という肥大化した自己愛、未熟な人格等の人格の問題、自我を守るために社会に対して怒りや恨みを向ける防衛機制、刑事司法システムを利用した「社会的」自殺等により特徴付けられる。
- ・ 連続犯は、未熟な人格や反社会性等の人格の問題、日常生活の中で自分の人生をコントロールしている感覚に乏しく、力の確認をしたいという感覚により特徴づけられる。若い女性を対象とする場合には、性的な動機が背景にある場合が多い。
- ・ 単発犯に比較して連続犯は精神病との関連が弱く、人格障害との関連が強い。
- ・ 加害者の行動に影響する要因の一つにマスコミの報道が考えられ、他の事件の報道から犯行の方法、動機、社会の反響等を学ぶ効果がある。

(3) まとめ

- ・ 通り魔事件は非常に稀な事件であり、加害者には社会的な弱者の立場にある者が多いため、そのときの社会の問題の影響を強く受ける。秋葉原事件でも、格差社会、雇用問題等現在の社会の病理が強く浮き上がっている。
- ・ 通り魔の加害者は、犯行形態の類型別に異なる特徴を示す。通り魔の実態をよく把握した上で対応策を考えていくことが重要である。